

ヨハンナ興水江つ『いろり火』より

祈りつつ 泣きつついねて いつしかに
夢の御国は 楽しかりける

我去れど この花水木 見るたびに
守りあるを 信じて生きよ

十字架の 花の伝説 聞きしより
なぜかひかる この花にして

赤き実も 花も葉もよし 花水木
御堂守りて 四季に美し

いけにえの キリストの血を 偲ぼせて
白き十字に 紅にじむ

胸に切る 十字花の如き 花びらを
痛き心に じっと見つむる

山菜の 夕餉楽しき ひとときは
讚美歌なども 共に歌ひて

食前も 食後も祈り 主にまして
耐え来し道を 共に語りぬ

水仙の 揃ひ咲きせし 枕辺に
聖書ひもとく 朝のひとつき

冬空に 仰ぐ十字の 塔冴えて
窓辺より漏る 潔き歌声

罪に染む 心潔めよ との如く
前宵祭に 白雪の降る

無限なる プレゼントなり 今日この日
神僕らに 主イエスを給ふ

幾日振り 御堂に聖餐を 受け居れば
イエス君の愛 ひしひしと迫る

聖日を ベッドに伏して はるかなる
長坂聖マリヤの礼拝を憶ふ

朝まだき 白衣の司祭 我がために
病床聖餐 受けさせ給ふ

夫と子と 孫たちと友と 師の君の
祈りのうちに 我癒されぬ

七人の 友それぞれに 主に生きて
十字架の道 歩みてありし

ヨハンナ興水江つ 略歴

- 1910年（明治43年）9月14日、現甲斐市長塚にて三井馨蔵の三女として生まれる。
- 東洋英和師範科で学ぶ。在学中（1929年）、鳥居坂メソヂスト教会にて洗礼を受ける。
- 卒業後、静岡英和幼稚園に勤務
- 1935年（昭和10年）3月14日、高根町の興水順治と結婚し、二男四女をもうける。戦中戦後の混乱期に6人の子育てをしながら、大家族の中で苦勞した。終戦直後は、引き上げてきた夫の兄弟家族も含めて20人前後のこともあった。
- 夫の両親を送った後、1957年11月17日、清里聖アンデレ教会にて、野瀬秀敏主教より堅信式を受け、教会生活の中で自分の信仰を深めた。1962年に清里聖アンデレ教会による伝道活動の実として長坂聖マリヤ教会が創立されると、植松徒爾主教（当時、司祭）と共に長坂に移り、長年にわたり教会委員を務め、牧師に協力して信徒の指導に当たった。教会生活は恵みに満ちたものだった。自宅を開放し、教会学校の集まりをしばしば催した。
- 1982～1983年、日本聖公会横浜教区婦人会の会長を務めた（山梨県から初めての教区婦人會会長）
- 戦後すぐに3歳であった次女を亡くし、今から10年前には同居していた長女に先立たれた。孫9人、ひ孫14人に恵まれた。一番下のひ孫は今年3月に生まれた。
- 2012年4月24日帰天（101歳）